

鳥取看護大学大学院看護学研究科看護学専攻
設置の趣旨等を記載した書類

資 料

資料目次（資料１～資料34）

資料１	まちの保健室の概要
資料２	まめんなかえ師範塾の概要
資料３	サント・トーマス大学との協定書
資料４	近隣の看護系大学院＜修士（博士前期）課程＞の位置
資料５	ニーズ調査アンケート結果（看護職・保健師）
資料６	ニーズ調査アンケート結果（学生）
資料７	鳥取県看護協会からの要望書
資料８	鳥取県からの意見書
資料９	学部で育てる力と大学院で育てる力の図
資料10	カリキュラム編成の図
資料11	ディプロマポリシーと各科目の関係
資料12	既設看護学部と看護学研究科の関連図（カリキュラム）
資料13	大学院と学部の教員配置
資料14	鳥取看護大学大学院・鳥取看護大学・鳥取短期大学就業規則（案）
資料15	鳥取看護大学大学院設置に伴う定年年齢を越えた教員の採用に関する特例規程
資料16	履修モデルA～D
資料17	鳥取看護大学大学院長期履修規程（案）
資料18	鳥取看護大学大学院長期履修者学費分納規程（案）
資料19	長期履修学生 履修モデルA～D
資料20	特別研究実施要領（案）
資料21	鳥取看護大学大学院看護学研究科委員会規程（案）
資料22	鳥取看護大学大学院・鳥取看護大学・鳥取短期大学研究倫理審査委員会規程（案）
資料23	修士論文審査基準（案）
資料24	修士論文審査結果等報告書（案）

資料25	鳥取看護大学大学院学位規程（案）
資料26	大学院生の研究室（図面）
資料27	大学院設置に係る図書等資料
資料28	鳥取看護大学大学院 時間割（案）
資料29	大学院と学部を兼ねる教員の状況
資料30	最も負担の多い教員，負担の少ない教員の一週間のスケジュール
資料31	学校法人藤田学院 情報公開規程
資料32	鳥取看護大学 FD委員会規程
資料33	鳥取看護大学・鳥取短期大学 SD委員会規程
資料34	平成29年度 学校法人藤田学院 FD・SD活動実績



鳥取看護大学
Tottori College of Nursing

平成29年度年間スケジュール

まちの保健室

健康チェックをして、私たちとお話しましょう！
「まちの保健室」は地域の中のホッとする居場所を目指しています。



場所 鳥取看護大学
1階 交流ホールにて開催

時間 13:30～15:30

無料

健康相談

骨密度測定

身長・体重

血管年齢測定

体脂肪測定

血圧測定

肌年齢測定

※要予約

回数	月／日 毎月1回開催	各月のミニ講話のテーマ
1	4月19日(水)	体調を整え、春を過ごそう！
2	5月17日(水)	健康と食事について
3	6月21日(水)	心のトリアージ
4	7月19日(水)	認知症予防
5	8月9日(水)	健康と運動(仮)
6	9月20日(水)	塩分の取り方を考える(仮)
7	10月18日(水)	老いの幸せについて
8	11月15日(水)	歌って♪遊んで♪
9	12月20日(水)	食べる機能をのばそう！
10	1月17日(水)	健康な生活を送るために ～排泄のお話し～
11	2月21日(水)	脳力アップで若返り
12	3月14日(水)	ユマニチュード ～心の通うケア～

お問い合わせは
こちら！



鳥取看護大学【事務室】
Tottori College of Nursing

TEL. 0858-27-2800(代)



平成29年度

まちの保健室

血管年齢・動脈硬化度測定

血管年齢・動脈硬化度測定 (ABI・CAVI) を、毎月本学で開催中の「まちの保健室」で実施しています。ご希望の方は、以下の受付期間の平日9時～17時の間に、電話で事前申し込みをしてください(毎月7名様までの予定です)。

要予約



はなまる元気な
血管をめざそう!

測定月	ABI予約受付期間	実施日 毎月1回開催
4月	4月3日(月)～13日(木)	4月19日(水)
5月	5月1日(月)～12日(金)	5月17日(水)
6月	6月1日(木)～12日(月)	6月21日(水)
7月	7月3日(月)～13日(木)	7月19日(水)
8月	8月1日(火)～8日(火)	8月9日(水)
9月	9月1日(金)～14日(木)	9月20日(水)
10月	10月2日(月)～13日(金)	10月18日(水)
11月	11月1日(水)～9日(木)	11月15日(水)
12月	12月1日(金)～11日(月)	12月20日(水)
1月	1月9日(火)～15日(月)	1月17日(水)
2月	2月1日(木)～14日(水)	2月21日(水)
3月	3月1日(木)～9日(金)	3月14日(水)

お申し込み先は
こちら!



鳥取看護大学 [事務室]

Tottori College of Nursing

TEL. 0858-27-2800(代)



平成29年度 まちの保健室

あなたの町の公民館で開催されます！

公民館名	ミニ講話テーマ	日程	開始時間
上北条	ちょっと知っ得!? 認知症	9月25日(月)	午前10時
北谷	「ふりふりストレッチ」で転倒予防		午前10時
小鴨	健康な生活を送るために 一排泄のお話		午後1時30分
高城	触れるケア		午後1時30分
明倫	「ふりふりストレッチ」で健康づくり	9月26日(火)	午前10時
関金	健康な生活を送るために 一排泄のお話		午前10時
上井*	知って得をする、歯磨き粉と入れ歯洗浄剤の選び方		午後1時30分
成徳	身体活動のすすめ 一楽しく身体を動かしましょう		午後1時30分
上灘	コリを撃退!!	9月27日(水)	午後1時30分
西郷	脳のアンチエイジング		午前10時
灘手	知って得をする、歯磨き粉と入れ歯洗浄剤の選び方		午前10時
上小鴨	身体活動のすすめ 一楽しく身体を動かしましょう		午後1時30分
社	転ばない体づくり		午後1時30分

内容：健康相談、健康ミニ講話、血圧・身長・体重・
体脂肪測定、骨密度測定

(*上井公民館は骨密度測定以外の項目です。)

無 料
予約不要



看護学生もお待ちしております。
健康チェックに来られませんか？

お問い合わせ：鳥取看護大学・鳥取短期大学 グローカルセンター TEL.0858-27-0107

健康づくりリーダーを養成します！

平成 29 年度

「まめんなかえ師範塾」の受講生を募集します

～ふるってご参加ください～

「まめんなかえ師範塾」とは



鳥取看護大学では、県内各地域で健康づくりを行うリーダーやボランティアの方々の裾野を広げ、資質の向上を図るため、大学で様々な健康づくりの支援について学ぶ「まめんなかえ師範塾」を開催します。地域の中で、気軽に誰でも「まめんなかえ」と声をかけあえるまちづくりを目指します。

講座を修了された方には「まめんなかえ師範塾修了証」をお渡しますので、ぜひ、ご参加ください。さらに、ご希望に応じて看護大学が運営する「まちの保健室」に参加していただき、一緒に地域の健康づくりを目指しましょう。

1. 実施主体

鳥取県・倉吉市・鳥取看護大学

* 平成 29 年度は、7 月に鳥取市、米子市で、3 月（平成 30 年）に鳥取看護大学で、健康づくりなど多様なテーマの講座を開催します。

2. 受講料

無料です

3. 募集人数

約 30 名（先着順です）

4. 申し込み方法

各期の開始 1 か月前から受付けを始めます。鳥取看護大学・鳥取短期大学 グローカルセンターへ電話でお申し込みください。

募集人数になり次第締め切ります

期	受付開始日	開催地区
第 6 期	平成 29 年 6 月 1 日～	東部
第 7 期	平成 29 年 6 月 1 日～	西部
第 8 期	平成 30 年 2 月 1 日～	中部

5. 修了後は・・・

- * 「まめんなかえ師範塾修了証」を交付します。（各回のすべての授業を受講されていることが必要です。）
- * めでたく「まめんなかえ師範」となれましたら、鳥取看護大学が運営する「まちの保健室」に参加いただき、健康づくりを支援していきましょう。
- * 「まめんなかえ師範塾」を開設いただける場合は、木製の「まめんなかえ師範塾」看板をお渡しします。

6. 申し込み・問い合わせ先

倉吉市福庭 854 鳥取看護大学・鳥取短期大学

グローバルセンター 「まめんなかえ師範塾」

TEL 0858-27-0107 FAX 0858-26-9138

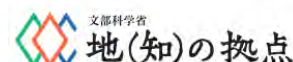


7. 講座の概要

第6期 東部開催 鳥取看護大学（担当教員：土居裕美子教授、田中美菜江助手）

日時	テーマ	講師
平成 29 年 7 月 15 日（土） 場所：県立福祉人材研修センター 開講式 10：00～11：00 11：10～12：10 13：30～14：30 14：40～15：40	これからの健康について からだのデータの意味を理解しよう！ 運動と骨粗しょう症 高血圧と食事	近田敬子 学長（鳥取看護大学） 荒川満枝 教授（鳥取看護大学） 前田陽子 助教（鳥取看護大学） 永見純子 助教（鳥取看護大学）
平成 29 年 7 月 19 日（水） 場所：鳥取看護大学 「まちの保健室」 13：00～15：00 15：00～16：00	「まちの保健室」見学実習 グループワーク	鳥取看護大学地域貢献委員会
平成 29 年 7 月 22 日（土） 場所：県立福祉人材研修センター 10：00～11：00 11：10～12：10 13：00～16：00 閉講式	「こころ」と健康 地域で安心して暮らすために 「まちの保健室」体験実習 グループワーク	中川康江准教授（鳥取看護大学） 高田美子准教授（鳥取看護大学） 鳥取看護大学地域貢献委員会

* すべての授業と実習を受講していただきます





**MEMORANDUM OF UNDERSTANDING
ON
ACADEMIC AND RESEARCH COOPERATION
BETWEEN
THE UNIVERSITY OF SANTO TOMAS, PHILIPPINES
AND
TOTTORI COLLEGE OF NURSING, JAPAN**



This Memorandum of Understanding is made and entered into by and between:

The UNIVERSITY OF SANTO TOMAS, a non-stock, non-profit educational institution duly organized and existing under the laws of the Philippines represented in this instrument by its Rector, **VERY REV. FR. HERMINIO V. DAGOHY, O.P.**, with address at España Blvd, Metro Manila, 1015 Philippines hereinafter referred to as **UST**,

and

TOTTORI COLLEGE OF NURSING, an educational institution duly organized under the laws of Japan, with address 854 Fukuba, Kurayoshi, Tottori, 682-8555, Japan, hereinafter referred to as **TCN**,

Considering their common interest in promoting the mutual cooperation in the area of education and research, both parties, therefore, wish to expand the basis for friendship and cooperative educational exchange and have set forth the following Memorandum of Understanding (MOU).

Article I
PURPOSE

The purpose of this MOU is to develop academic and educational cooperation on the basis of equality and reciprocity and to promote relations and mutual understanding between both universities.

Article II
SCOPE OF ACTIVITIES

Both universities undertake to promote and develop academic cooperation through:

1. Exchange of academic and administrative staff and students.
2. Cooperation in research and the presentation of its results.
3. Exchange of academic materials, publications and other scientific information.
4. Organization of joint academic and scientific activities, such as courses, conferences, seminars, symposia or lectures
5. Other educational and academic exchanges to which both universities agree.

Article III
FINANCIAL ARRANGEMENT

1. Both universities agree that all specific arrangements and plans for activities are to be negotiated and are dependent on the availability of funds.
2. Both universities agree to seek financial support from national and international organizations for the cooperative activities to be undertaken as stated under the terms of this MOU.

Article IV
AGREEMENT OF IMPLEMENTATION

A detailed description of the scope of activities shall be defined in an Agreement of Implementation, which constitutes an integral part of this MOU.

An Agreement of Implementation will include such items as:

1. Elaboration of the responsibilities of each institution for the agreed upon activity.

MEMORANDUM OF UNDERSTANDING ON
ACADEMIC AND RESEARCH COOPERATION BETWEEN
THE UNIVERSITY OF SANTO TOMAS, PHILIPPINES AND
TOTTORI COLLEGE OF NURSING, JAPAN

2. Schedules for the specific activity.
3. Budgets and sources of financing for each activity.
4. Any other items deemed necessary for the efficient management and activity.

Article V

INTELLECTUAL PROPERTY RIGHTS AND PUBLICATIONS

1. The UST and TCN will share all data and research findings, patent rights, copyrights, and other intellectual property rights to any discoveries, inventions and products resulting from this MOU.
2. Both parties must give written approval for the utilization and publication of the data and research findings.
3. Detailed management of the Intellectual Property Rights and Publication shall be defined in the Agreement of Implementation of each activity.

Article VI

SETTLEMENT OF DIFFERENCES

The differing viewpoints and interpretations of this MOU shall be settled amicably by mutual consultation and negotiation.

Article VII

AMENDMENTS, DURATION AND TERMINATION

1. Amendments to this MOU can only be written by mutual consent of the two parties.
2. This MOU shall be in effect from the date of its signing and be valid for the duration of five (5) years from that date, and will be automatically renewed on an annual basis thereafter, unless terminated or replaced with a new MOU.
3. This MOU may be terminated by either party by written notice at least six (6) months in advance. In case the MOU ceases to be in effect on account of termination thereof, the provisions of the Plan Operation shall be continued to apply to the extent necessary to secure the implementation of existing activities as agreed upon in the Agreement of Implementation.

This MOU is written in English in two (2) copies, both are authentic. As witness to their consent to this MOU, the appropriate authorities hereunto provide their signatures.

Fully accepting the articles stated above, the parties hereby sign this Agreement this ____ day of _____, Two Thousand Seventeen.

IN WITNESS WHEREOF, both parties hereunto set their hands on this ____ day of ____ 2017.

FOR UNIVERSITY OF SANTO TOMAS

VERY REV. FR. HERMINIO V. DAGOHOY, O.P.

Rector

Date 11/22/2017

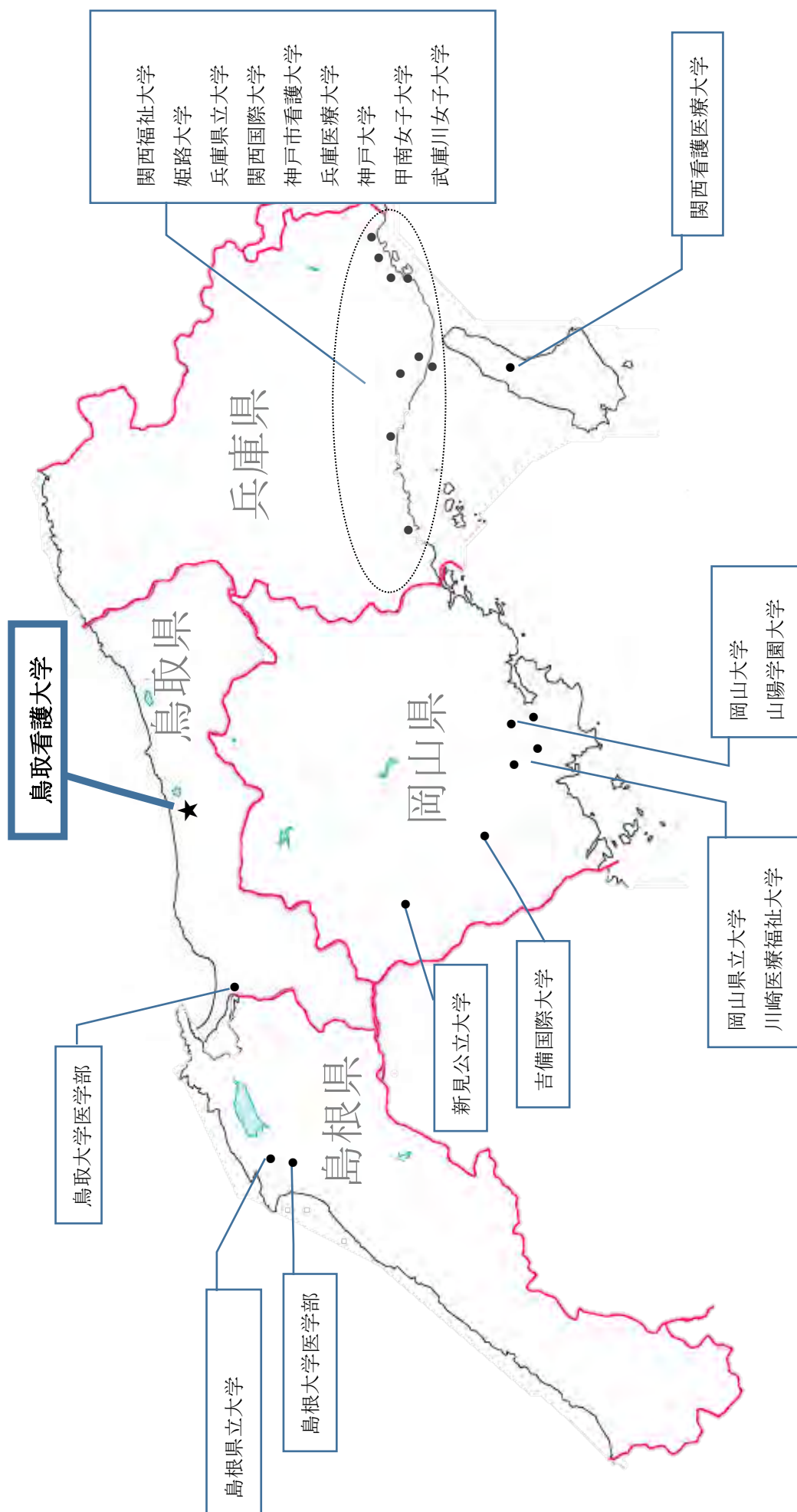
FOR TOTTORI COLLEGE OF NURSING

KEIKO CHIKATA, R.N., Ph.D.

President

Date 2017 11.10

近隣の看護系大学院<修士（博士前期）課程>の位置



I. 看護職への調査

1. 調査概要

- 1) 調査の目的 本調査は、平成31年4月開設に向けて構想中である鳥取看護大学大学院看護学研究科修士課程(仮称)(以下、本大学院)に対する学生募集ニーズを、将来の主要な入学予定者として想定している鳥取県内の現職の看護職者を対象に、アンケート調査によって計測することを目的としたものである。
- 2) 調査期間 平成29年10月
- 3) 調査方法 調査対象者である現職の看護職者に対し、勤務先を通して返信用封筒に入れたアンケート用紙を個人に配布していただき、各自の判断で記入したのち大学宛に投函していただく。なお、返送をもって調査に同意を得たものとする。
無記名かつ返送は回答者の自由意思に任されているため、調査の任意性、匿名性、客観性は十分に担保されている。
- 4) 調査対象者 現職の看護職者
- 5) 調査内容 17問の選択肢式または記述式質問、1問の自由記述
調査依頼書およびアンケート調査用紙は別紙のとおり
- 6) 有効回答数 1,455 (配布数3,698部、有効回答率 39.3%)

2. 調査方法と調査実施件数

本大学院は、鳥取県内の現職の看護職者を主要な入学予定者として想定している。今回のニーズ調査では、鳥取県東部・中部・西部の病院から20施設に勤務する看護職者に協力をいただいた。

アンケート用紙の配付部数は3,698部であり、有効回答数は1,455、有効回答率は、39.3%であった。アンケートは匿名であるため、回答者がどの事業所に所属しているかは不明である。

アンケート調査を依頼した鳥取県内の病院および看護師数

	地区	病院(20施設)	看護師数
1	東部	鳥取医療センター	271
2	東部	鳥取県立中央病院	534
3	東部	鳥取市立病院	310
4	東部	鳥取赤十字病院	343
5	東部	鳥取生協病院	262
6	東部	渡辺病院	145
7	東部	ウェルフェア北園渡辺病院	140
8	中部	鳥取県立厚生病院	296
9	中部	北岡病院	64
10	中部	垣田病院	65
11	中部	清水病院	73
12	中部	野島病院	134
13	中部	谷口病院	53
14	中部	倉吉病院	112
15	中部	藤井正雄記念病院	82
16	中部	三朝温泉病院	104
17	西部	山陰労災病院	280
18	西部	博愛病院	172
19	西部	鳥取県済生会境港総合病院	158
20	西部	西伯病院	100
		合計	3,698

3. 調査結果および分析

※各設問、空欄(無回答)は有効回答数から除外

I. ご自身についてお尋ねします。

問1. 所属の施設がある地域について、該当するものに○をつけてください。

- ① 鳥取市 ② 米子市 ③ 倉吉市 ④ 境港市 ⑤ 岩美町 ⑥ 若桜町 ⑦ 智頭町
⑧ 八頭町 ⑨ 三朝町 ⑩ 湯梨浜町 ⑪ 琴浦町 ⑫ 北栄町 ⑬ 日吉津村 ⑭ 大山町
⑮ 南部町 ⑯ 伯耆町 ⑰ 日南町 ⑱ 日野町 ⑲ 江府町 ⑳ その他 ()

I 問1. 所属施設	合計(n=1,450)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①鳥取市	804	55.4	158	66.9	198	59.3	209	51.9	178	48.0	52	57.8	9	56.3
②米子市	153	10.6	21	8.9	25	7.5	60	14.9	43	11.6	2	2.2	2	12.5
③倉吉市	324	22.3	41	17.4	78	23.4	84	20.8	92	24.8	25	27.8	4	25.0
④境港市	62	4.3	5	2.1	16	4.8	20	5.0	16	4.3	4	4.4	1	6.3
⑤岩美町	1	0.1	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑥若桜町	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑦智頭町	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑧八頭町	4	0.3	1	0.4	0	0.0	2	0.5	1	0.3	0	0.0	0	0.0
⑨三朝町	41	2.8	5	2.1	7	2.1	11	2.7	17	4.6	1	1.1	0	0.0
⑩湯梨浜町	11	0.8	3	1.3	2	0.6	4	1.0	1	0.3	1	1.1	0	0.0
⑪琴浦町	10	0.7	1	0.4	3	0.9	2	0.5	4	1.1	0	0.0	0	0.0
⑫北栄町	11	0.8	0	0.0	1	0.3	4	1.0	4	1.1	2	2.2	0	0.0
⑬日吉津村	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑭大山町	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑮南部町	27	1.9	0	0.0	4	1.2	6	1.5	14	3.8	3	3.3	0	0.0
⑯伯耆町	2	0.1	0	0.0	0	0.0	1	0.2	1	0.3	0	0.0	0	0.0
⑰日南町	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑱日野町	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑲江府町	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑳その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	1,450	100	236	100	334	100	403	100	371	100	90	100	16	100

所属施設の所在地については1,450件回答があり、鳥取市、倉吉市所在の施設の方が約8割(1,128件)を占めており、特に本大学院の対象となる方々からのご意見を得ることができた。

問2. 性別について、該当するものに○をつけてください。

- ① 男性 ② 女性

I 問2. 性別	合計(n=1,451)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
男	110	7.6	38	16.1	39	11.6	24	6.0	8	2.2	1	1.1	0	0.0
女	1,341	92.4	198	83.9	297	88.4	379	94.0	362	97.8	88	98.9	17	100.0
計	1,451	100	236	100	336	100	403	100	370	100	89	100	17	100

女性が約9割を占めていたが、7.6%(110件)の男性からの回答があった。

問3. 年齢をご記入ください。

I 問3. 年齢	合計(n=1,455)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
計	1,455	100	236	16.2	336	23.1	403	27.7	371	25.5	90	6.2	19	1.3

年齢構成については、40代が一番多く27.7%で、50代25.5%、30代23.1%と続き、概ね様々な年代の看護職者からの回答が得られた。

問4. 最終教育機関について、該当するものに○をつけてください。

- ① 高等学校（高校専攻科含む） ② 専門学校 ③ 短期大学 ④ 大学
⑤ 大学院（修士課程） ⑥ 大学院（博士課程） ⑦ その他（ ）

I 問4. 最終教育機関	合計 (n=1,452)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①高等学校(高校専攻科含む)	62	4.3	18	7.6	17	5.1	9	2.2	9	2.4	9	10.0	0	0.0
②専門学校	1,181	81.3	183	77.5	273	81.3	333	82.6	307	82.7	75	83.3	10	62.5
③短期大学	104	7.2	4	1.7	18	5.4	40	9.9	38	10.2	3	3.3	1	6.3
④大学	85	5.9	29	12.3	25	7.4	15	3.7	11	3.0	1	1.1	4	25.0
⑤大学院(修士課程)	6	0.4	0	0.0	1	0.3	3	0.7	1	0.3	0	0.0	1	6.3
⑥大学院(博士課程)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑦その他	14	1.0	2	0.8	2	0.6	3	0.7	5	1.3	2	2.2	0	0.0
計	1,452	100	236	100	336	100	403	100	371	100	90	100	16	100

- ⑦その他 高等専修学校、5年一貫校、短期大学通信課程、助産修士(専門職)、専攻科(短大)、助産師学校、看護学校、専門学校通信教育、高等専門学校、通信大学、認定教育課程、専修学校、医療短大専攻科、短大中退

専門学校卒の方が、約8割を占めており、短大卒や大卒も約1割を占めていた。これらを合わせると93%の方が、本大学院の入学対象となられる方と言える。また、博士課程は一人もおらず、修士課程と答えた方は6名で1%にも満たなかった。修士課程に関する知識やイメージを十分持てずに回答されたケース、また本アンケートが契機となって、修士課程について考え始めた可能性もあると考えられた。

問5. 1998年の学校教育法改正により、専門学校や短期大学を卒業し、看護職としてのキャリアがあり、研究課題をもっていれば大学院に直接進学することが可能になっていることをご存知でしたか。該当するものに○をつけてください。

- ① 知っていた ② 知らなかった

I 問5. 直接進学	合計 (n=1,433)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①知っていた	397	27.7	61	26.3	73	22.1	112	28.0	118	32.2	27	30.7	6	40.0
②知らなかった	1,036	72.3	171	73.7	258	77.9	288	72.0	249	67.8	61	69.3	9	60.0
計	1,433	100	232	100	331	100	400	100	367	100	88	100	15	100

知らなかった人が、72.3%を占めていた。前にも述べた通り、これまで進学という事を考えたこともなかった看護師が多く含まれると考えられた。本アンケートは、そういった方に自身のキャリア形成を再考いただく機会を与えたと考える。

問6. 看護職（看護教員の経験も含む）として、通算経験の年数・月数の数字をご記入ください。

I 問6. 勤務年数	合計 (n=1,438)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1～5年	256	17.8	197	83.5	34	10.1	20	5.0	4	1.1	0	0.0	1	8.3
6～10年	169	11.8	39	16.5	99	29.5	23	5.8	5	1.4	0	0.0	3	25.0
11～20年	395	27.5	0	0.0	202	60.1	165	41.4	22	6.0	3	3.4	3	25.0
21～30年	361	25.1	0	0.0	1	0.3	190	47.6	159	43.3	10	11.4	1	8.3
31年以上	257	17.9	0	0.0	0	0.0	1	0.3	177	48.2	75	85.2	4	33.3
計	1,438	100	236	100	336	100	399	100	367	100	88	100	12	100

勤務年数は、11～20年、21年～30年が一番多かったが、概ね様々な勤務年数の方々に回答いただけた。

問7. お持ちの資格すべてに○をつけてください。

- ① 看護師 ② 保健師 ③ 助産師 ④ ケアマネージャー
 ⑤ 認定看護師（分野： ）
 ⑥ 専門看護師（分野： ）
 ⑦ 養護教諭
 ⑧ 認定看護管理者（サードレベル）
 ⑨ その他（ ）

I 問7. 所持資格	合計 (n=1,445)		20代 (n=236)		30代 (n=334)		40代 (n=401)		50代 (n=368)		60代以上 (n=90)		不明 (n=16)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①看護師	1,381	95.6	231	97.9	323	96.7	387	96.5	346	94.0	79	87.8	15	93.8
②保健師	88	6.1	26	11.0	29	8.7	19	4.7	10	2.7	1	1.1	3	18.8
③助産師	88	6.1	15	6.4	20	6.0	25	6.2	22	6.0	3	3.3	3	18.8
④ケアマネージャー	58	4.0	0	0.0	0	0.0	20	5.0	29	7.9	8	8.9	1	6.3
⑤認定看護師	43	3.0	0	0.0	10	3.0	18	4.5	12	3.3	3	3.3	0	0.0
⑥専門看護師	6	0.4	0	0.0	0	0.0	1	0.2	5	1.4	0	0.0	0	0.0
⑦養護教諭	20	1.4	5	2.1	7	2.1	4	1.0	3	0.8	1	1.1	0	0.0
⑧認定看護管理者（サードレベル）	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0
⑨その他	127	8.8	6	2.5	26	7.8	34	8.5	46	12.5	12	13.3	3	18.8
計	1,812	—	283	—	415	—	508	—	474	—	107	—	25	—

⑤認定看護師 分野名	件数
がん化学療法看護	2
がん放射線療法看護	1
ファーストレベル	2
化学療法	1
感染管理	3
緩和ケア	4
救急看護	2
呼吸療法	1
集中ケア	1
新生児集中ケア	1
精神科	2
糖尿病看護	3
透析看護	1
日本精神科看護協会の認定看護師	1
乳がん看護	1
認知症看護	3
脳卒中リハビリテーション看護	1
皮膚・排泄ケア	1
不妊症看護	1
慢性心不全看護	1
摂食・えん下障害看護	1
総計	34

⑥専門看護師 分野名	件数
CDEJ	1
NST	2
RST、NST	1
リウマチ、訪問、災害	1
内視鏡技師	1
総計	6

⑨その他	件数
CDE	1
CDEJ	1
IVR学会認定IVR看護師	1
NST	4
ケアマネージャー	1
セカンド	1
ファースト	1
ファーストレベル認定看護管理者	1
プレゼンテーション実務士	1
リウマチケア看護師	1
リンパドレナージュ	1
リンパマッサージ	1
医療安全管理者	2
栄養士	1
衛生管理者	3
介護福祉士	4
看護管理セカンドレベル	1
救急救命士	3
滅菌検査技士Ⅱ級	1
呼吸療法認定士	2
骨粗鬆症ケアマネージャー	3
災害支援ナース	2
産業カウンセラー	1
歯科衛生士	1
実習指導者	1
社会福祉士	2
准看護師	61
消化器内視鏡技師	4
糖尿病療養指導士	3
特定行為修了者	1
日本DMAT	1
日本運動器看護学会認定運動器看護師	1
認知症ケア専門士	2
認定看護管理セカンド	1
認定心理士	1
保育士	2
慢性腎臓病療養指導看護師	2
幼稚園教諭2種	1
臨地実習指導者	1
介護支援専門員	1
衛生管理士	1
カイロプラクター	1
特定化学物質作業主任者	1
滅菌技師	1
衛生工学衛生管理者	1
総計	129

看護師資格は95.6%が所持しており、保健師や助産師をお持ちの方がそれぞれ6.1%含まれていて、20～30代の若い世代に多い傾向があった。認定看護師は、3.0%(誤り分を減らすと37人で2.6%、記述があるものだけとすると28人で1.9%)の方が取得されていて、40代が中心であった。ケアマネージャーは4.0%(5人のその他に記述した人を加えると4.4%)の方が取得され、40～50代の方が多く養護教諭も1.4%資格取得されていた。専門看護師は、6名の方が取得されているとあったが、その内訳をみると6件すべてが専門看護師の資格ではなかったため、取得者は0で、「専門看護師」について知識がないまま答えられた可能性が高かった。また、看護師資格・准看護師資格を合わせて全数にならないことから、看護職者以外の職の方にアンケートが渡り、回答してくださったことも読み取れた。

問8. 現在どのような職種で仕事をされていますか。該当するものに○をつけてください。
(複数回答不可)

① 看護師 ② 保健師 ③ 助産師 ④ 看護教員 ⑤ その他 ()

I 問8. 現在の職種	合計 (n=1,447)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①看護師	1,349	93.2	222	94.1	308	91.9	380	94.8	347	94.0	79	87.8	13	81.3
②保健師	3	0.2	0	0.0	2	0.6	1	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
③助産師	51	3.5	11	4.7	19	5.7	12	3.0	7	1.9	1	1.1	1	6.3
④看護教員	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑤その他	44	3.0	3	1.3	6	1.8	8	2.0	15	4.1	10	11.1	2	12.5
計	1,447	100	236	100	335	100	401	100	369	100	90	100	16	100

⑤その他	件数
ケアマネージャー	1
看護職	1
管理師長	1
准看護師	26
消化器内視鏡技師	1
相談員	1
地域連携	1
認定NS業務	1
専門看護師	1
総計	34

本調査に回答くださったほとんどの方が看護師として在籍し、助産師が3.5%、保健師が0.2%含まれていた。

問9. 現在、勤務の施設について、該当するものに○をつけてください。

① 病院 ② 教育機関 ③ 訪問看護ステーション ④ 介護保険施設
⑤ その他 ()

I 問9. 勤務施設	合計 (n=1,453)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①病院	1,406	96.8	235	99.6	329	98.2	391	97.3	352	94.9	80	88.9	19	100
②教育機関	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
③訪問介護ステーション	32	2.2	1	0.4	4	1.2	9	2.2	12	3.2	6	6.7	0	0.0
④介護保険施設	15	1.0	0	0.0	2	0.6	2	0.5	7	1.9	4	4.4	0	0.0
計	1,453	100	236	100	335	100	402	100	371	100	90	100	19	100

本調査に回答くださったほとんどの方は、病院勤務で2.2%の方は訪問看護ステーションに、1%の方は介護保険の施設にご勤務の方であった。

- 問10. どのような立場で仕事をされていますか。該当するものに○をつけてください。
 ① スタッフ ② 臨地実習指導者 ③ 病棟管理者 ④ 看護部門管理者 ⑤ 看護教員
 ⑥ その他 ()

問10. 立場	合計 (n=1,449)		20代 (n=236)		30代 (n=335)		40代 (n=400)		50代 (n=370)		60代以上 (n=89)		不明 (n=19)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①スタッフ	1,245	85.9	235	99.6	319	95.2	336	84.0	259	70.0	78	87.6	18	94.7
②臨地実習指導者	87	6.0	4	1.7	20	6.0	39	9.8	22	5.9	1	1.1	1	5.3
③病棟管理者	103	7.1	0	0.0	6	1.8	38	9.5	57	15.4	2	2.2	0	0.0
④看護部門管理者	32	2.2	0	0.0	2	0.6	2	0.5	25	6.8	2	2.2	1	5.3
⑤看護教員	1	0.1	0	0.0	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑥その他	53	3.7	1	0.4	4	1.2	14	3.5	25	6.8	9	10.1	0	0.0
計	1,521	—	240	—	351	—	430	—	388	—	92	—	20	—

⑥その他	件数
チームリーダー	2
パート	2
医療安全管理者	1
感染管理専従	1
感染管理担当者	1
感染対策担当看護師(兼任)	1
看護係長	2
看護主任	1
看護職	1
管理者	1
健診センター内看護職員管理者	1
主任	4
職員健康管理	1
新人教育担当師長	1
相談員スタッフ	1
地域医療連携係長	1
地域医療連携室	1
地域在宅医療部統括者	1
地域連携スタッフ	1
認定看護師	1
認定分野専従管理者	1
副看護師長	7
総計	34

本調査に回答くださった方の85.9%はスタッフとして勤務されていた。複数回答されている方がおられたため、それ以外に病棟管理者7.1%、看護部門管理者が2.2%含まれ、臨地実習指導者が6.0%含まれた。

Ⅱ. 鳥取看護大学の大学院設置について、あなたのご意見をお聞かせください。

- 問1. 鳥取看護大学大学院（修士課程）の設置は必要だと思いますか。該当するものに○をつけてください。

- ① ぜひ設置して欲しい ② できれば設置して欲しい ③ どちらともいえない
 ④ 設置の必要はない ⑤ その他 ()

Ⅱ 問1. 設置の必要性	合計 (n=1,440)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①ぜひ設置して欲しい	187	13.0	16	6.8	42	12.6	49	12.3	67	18.3	10	11.4	3	15.8
②できれば設置して欲しい	420	29.2	56	23.9	82	24.6	129	32.4	117	31.9	32	36.4	4	21.1
③どちらともいえない	750	52.1	148	63.2	194	58.1	199	50.0	162	44.1	38	43.2	9	47.4
④設置の必要はない	60	4.2	8	3.4	15	4.5	17	4.3	13	3.5	6	6.8	1	5.3
⑤その他	23	1.6	6	2.6	1	0.3	4	1.0	8	2.2	2	2.3	2	10.5
計	1,440	100	234	100	334	100	398	100	367	100	88	100	19	100

⑤その他	件数
あってもいいと思う。	1
どちらでも	1
わからない	11
関心がない	1
設置していいんじゃないですか。勉強したい人の為に	1
大学がもう少し定着してからでもいいかと思ひます	1
大学のカリキュラムが落ちついてからでいい	1
鳥大の看護学部とのすみ分けは？	1
必要があれば設置してあげて下さい。	1
必要かどうかわからない	1
必要性がわからない	1
必要性が理解できていない	1
総計	22

「ぜひ設置して欲しい」「できれば設置して欲しい」を合わせると42.2%の方が設置を望んでいる結果が得られ、年代が上がるにつれて増える傾向にあった。設置の必要性がないという方は全体で4.2%に過ぎなかった。

問2. 鳥取看護大学大学院を設置した場合、進学したいと思いますか。該当するものに○をつけてください。

- ① ぜひ進学したい ② 条件が合えば進学したい ③ 将来、進学するかもしれない
④ 進学する予定はない ⑤ 修士課程を修了している
⑥ その他 ()

Ⅱ 問2. 鳥取看護大学大学院へ	合計 (n=1,445)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①ぜひ進学したい	20	1.4	0	0.0	6	1.8	5	1.2	7	1.9	1	1.3	1	5.9
②条件が合えば進学したい	241	16.7	53	22.4	69	20.5	80	19.9	34	9.1	2	2.5	3	17.6
③将来、進学するかもしれない	57	3.9	16	6.8	20	5.9	13	3.2	8	2.2	0	0.0	0	0.0
④進学する予定はない	1,081	74.8	165	69.6	238	70.6	294	73.1	305	82.0	67	83.8	12	70.6
⑤修士課程を修了している	6	0.4	1	0.4	1	0.3	2	0.5	1	0.3	0	0.0	1	5.9
⑥その他	40	2.8	2	0.8	3	0.9	8	2.0	17	4.6	10	12.5	0	0.0
計	1,445	100	237	100	337	100	402	100	372	100	80	100	17	100

⑥その他	件数		件数
もっと若いスタッフへ進学をすすめていきたい	1	どちらともいえない。内容によるのでは？	1
仕事と両立可能な形態を希望。通信制ありで。	1	わからない	1
もっと年齢が若ければ進学希望したと思う	1	60才で進学は考えていない。	1
進学したい時に無かったので	1	自分が行く予定はないが、向学心の高い生徒が増えるのではない	1
若ければ進学したい	1	若い人達の意見が大切	1
夜間通えるなら行ってみたい。仕事はやめられないので。	1	定年前なので若かったら進学の希望ありますが、もう気力ありません。	1
もう少し若かったら進学したかった	1	対象外	1
もう少し若かったら進学したかった	1	年令的に無理かもしれません。	1
子供が看護職を目指しているの、設置してほしい。	1	退職に近い	1
将来はわからないが、他者も、上をめざす人が多いので医大だけでなくそういう学校は増えればいい。	1	年令が高いため	1
子供に進学させたい	1	もう年なのでわり	1
子供に進学させたい	1	わからない	1
将来の子供たちの為に	1	わからない	1
今後の若い方の為になれば良いと思う	1	進学できない	1
もう少し若ければ進学したかった。距離的に無理かな…	1	頭が悪いのでできない。	1
年齢的にムリと思う	1	年なので	1
		総計	32

ご自身の進学の意味については、「ぜひ進学したい」という方が1,445人中20名(1.4%)もあり、30代～50代の方々と、臨床で出会う多くの課題について学びなおしてみたいと考えられている可能性がある。「条件が合えば進学したい」も241名(16.7%)も存在していて、自身の職務上の責任を果たすことに生きがいを感じつつ、より能力の高い看護専門職として成長する道を模索する体制にある方が多いことが伺えた。「将来、進学するかもしれない」という方は20～30代に多かった。

問3. 「問2で、①または②」と答えた方に伺います。大学院で学ぶ場合、どのような資質の向上を期待しますか。該当するものに○をつけてください。(複数回答可・2項目以内)

- ① 実践能力 ② 看護判断能力 ③ 療養支援能力 ④ 健康支援能力 ⑤ 調整力
⑥ 研究力 ⑦ 教育力 ⑧ 管理能力 ⑨ 資格の取得
⑩ その他 ()

Ⅱ 問3. 資質向上	合計 (n=258)		20代 (n=53)		30代 (n=74)		40代 (n=84)		50代 (n=41)		60代以上 (n=2)		不明 (n=4)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①実践能力	78	30.2	21	39.6	23	31.1	20	23.8	12	29.3	2	100.0	0	0.0
②看護判断能力	97	37.6	26	49.1	27	36.5	29	34.5	13	31.7	1	50.0	1	25.0
③療養支援能力	28	10.9	8	15.1	5	6.8	8	9.5	7	17.1	0	0.0	0	0.0
④健康支援能力	17	6.6	2	3.8	5	6.8	5	6.0	5	12.2	0	0.0	0	0.0
⑤調整力	18	7.0	4	7.5	4	5.4	7	8.3	3	7.3	0	0.0	0	0.0
⑥研究力	62	24.0	10	18.9	22	29.7	17	20.2	9	22.0	1	50.0	3	75.0
⑦教育力	78	30.2	17	32.1	18	24.3	31	36.9	10	24.4	1	50.0	1	25.0
⑧管理能力	40	15.5	7	13.2	10	13.5	16	19.0	6	14.6	0	0.0	1	25.0
⑨資格の取得	99	38.4	27	50.9	34	45.9	23	27.4	12	29.3	1	50.0	2	50.0
⑩その他	3	1.2	1	1.9	0	0.0	2	2.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	520	—	123	—	148	—	158	—	77	—	6	—	8	—

⑩その他	件数
今まで行ってきた看護を系統的に理論の裏づけを持って学びたい。	1
人間管理学、心理学など	1
社会の常識、あいさつ等態度	1
総計	3

問2で「ぜひ進学したい」「条件が合えば進学したい」と答えた261名を対象に、大学院で向上させたい資質の内容について行った質問で、258名から回答があった。回答内容として最も多かったのは、資格の取得99名(38.4%)で、看護判断能力97名(37.6%)、教育力78名(30.2%)、実践能力78名(30.2%)、研究力は62名(24.0%)、管理能力40名(15.5%)と続いた。教育力に関しては、特に40代の方にニーズが高い結果で、若手の教育に日々苦勞されている現状が伺えた。

問4. 「問2で、①または②」と答えた方に伺います。鳥取看護大学大学院に進学したと想定し、本学が設置を予定している次のコースのうち、あなたはどちらを希望しますか。該当するものに○をつけてください。

- ① 地域包括ケア看護コース
- ② 地域メンタルヘルスコース
- ③ 地域家族子育て支援看護コース
- ④ 国際地域看護コース

Ⅱ問4. 希望コース	合計 (n=238)		20代 (n=50)		30代 (n=67)		40代 (n=81)		50代 (n=35)		60代以上 (n=2)		不明 (n=3)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①地域包括ケア看護コース	116	48.7	26	52.0	28	41.8	42	51.9	17	48.6	2	100.0	1	33.3
②地域メンタルヘルスコース	55	23.1	6	12.0	13	19.4	23	28.4	12	34.3	0	0.0	1	33.3
③地域家族子育て支援看護コース	44	18.5	8	16.0	16	23.9	15	18.5	4	11.4	0	0.0	1	33.3
④国際地域看護コース	37	15.5	11	22.0	13	19.4	9	11.1	3	8.6	1	50.0	0	0.0
計	252	—	51	—	70	—	89	—	36	—	3	—	3	—

* 1つ選択する質問であったにもかかわらず、複数回答があった口

問2で「ぜひ進学したい」「条件が合えば進学したい」と答えた261名を対象に、本大学院で予定しているコースの希望について伺ったもので、238名から回答があり、23名は回答がなかった。地域包括ケアをテーマとしたコースは最も人気があり116名(48.7%)もの方の希望があった。メンタルヘルスをテーマとしたコースが55名(23.1%)、子育て支援をテーマとしたコースが44名(18.5%)、国際看護をテーマとしたコースが37名(15.5%)であった。地域包括やメンタルヘルスコースは40代が中心で、子育て支援は30代が最も多かった。国際看護は20～30代の若い世代にニーズがあった。

問5. 大学院の特徴として、以下の項目についての期待度を聞かせてください。該当するものに○をつけてください。

1) 昼夜開講制度（夜間や休日を併用する制度）

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
- ⑤ その他（ ）

Ⅱ問5-1. 昼夜開講制度	合計 (n=1,437)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	200	13.9	17	7.2	40	12.0	58	14.5	70	19.0	12	14.5	3	16.7
②期待する	564	39.2	84	35.7	123	36.8	176	44.1	141	38.3	34	41.0	6	33.3
③わからない	578	40.2	126	53.6	145	43.4	144	36.1	126	34.2	30	36.1	7	38.9
④期待しない	95	6.6	8	3.4	26	7.8	21	5.3	31	8.4	7	8.4	2	11.1
⑤その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	1,437	100	235	100	334	100	399	100	368	100	83	100	18	100

2) 長期履修制度（勤務をしながら、2年間の内容を3年または4年で履修する長期履修の制度）

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
- ⑤ その他（ ）

Ⅱ問5-2. 長期履修制度	合計 (n=1,437)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	196	13.6	15	6.4	39	11.6	64	16.0	63	17.1	10	12.5	5	27.8
②期待する	605	42.1	83	35.2	139	41.5	184	46.1	156	42.3	38	47.5	5	27.8
③わからない	516	35.9	119	50.4	127	37.9	124	31.1	115	31.2	25	31.3	6	33.3
④期待しない	118	8.2	19	8.1	30	9.0	26	6.5	34	9.2	7	8.8	2	11.1
⑤その他	2	0.1	0	0.0	0	0.0	1	0.3	1	0.3	0	0.0	0	0.0
計	1,437	100	236	100	335	100	399	100	369	100	80	100	18	100

3) 集中履修（1年間、現場を離れて大学院の学業に専念し、2年目は現場に復帰して修論をまとめる方法）

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
⑤ その他（ ）

Ⅱ 問5-3. 集中履修	合計 (n=1,433)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	156	10.9	18	7.6	39	11.7	44	11.0	45	12.2	7	8.9	3	17.6
②期待する	517	36.1	75	31.8	123	37.0	152	38.1	126	34.1	36	45.6	5	29.4
③わからない	602	42.0	124	52.5	138	41.6	158	39.6	147	39.7	28	35.4	7	41.2
④期待しない	152	10.6	19	8.1	32	9.6	45	11.3	46	12.4	8	10.1	2	11.8
⑤その他	6	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	1.6	0	0.0	0	0.0
計	1,433	100	236	100	332	100	399	100	370	100	79	100	17	100

4) 同時中継による遠隔授業

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
⑤ その他（ ）

Ⅱ 問5-4. 遠隔授業	合計 (n=1,431)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	207	14.5	15	6.4	39	11.7	66	16.5	73	19.7	11	13.9	3	17.6
②期待する	553	38.6	75	31.8	128	38.6	179	44.9	130	35.1	36	45.6	5	29.4
③わからない	558	39.0	133	56.4	133	40.1	123	30.8	137	37.0	25	31.6	7	41.2
④期待しない	113	7.9	13	5.5	33	9.9	30	7.5	28	7.6	7	8.9	2	11.8
⑤その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	1,431	100	236	100	333	100	398	100	368	99	79	100	17	100

5) パソコンやインターネットを活用し個人学習できるe-ラーニング

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
⑤ その他（ ）

Ⅱ 問5-5. e-ラーニング	合計 (n=1,433)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	261	18.2	22	9.3	44	13.3	86	21.6	90	24.5	16	20.0	3	16.7
②期待する	694	48.4	122	51.7	162	48.8	199	49.9	160	43.5	43	53.8	8	44.4
③わからない	359	25.1	76	32.2	89	26.8	86	21.6	86	23.4	17	21.3	5	27.8
④期待しない	118	8.2	16	6.8	37	11.1	28	7.0	31	8.4	4	5.0	2	11.1
⑤その他	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0
計	1,433	100	236	100	332	100	399	100	368	100	80	100	18	100

6) 専門職としての資格取得

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
⑤ その他（ ）

Ⅱ 問5-6. 専門職としての資格取得	合計 (n=1,436)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	364	25.3	47	19.9	88	26.4	108	27.1	97	26.3	19	23.5	5	27.8
②期待する	761	53.0	134	56.8	174	52.3	216	54.1	182	49.3	47	58.0	8	44.4
③わからない	263	18.3	53	22.5	56	16.8	63	15.8	74	20.1	12	14.8	5	27.8
④期待しない	48	3.3	2	0.8	15	4.5	12	3.0	16	4.3	3	3.7	0	0.0
⑤その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	1,436	100	236	100	333	100	399	100	369	100	81	100	18	100

7) 他大学・大学院との学術交流

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
⑤ その他 ()

Ⅱ 問5-7. 他大学・大学院との学術交流	合計 (n=1,435)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	191	13.3	15	6.4	40	12.0	53	13.3	70	19.0	9	11.1	4	22.2
②期待する	645	44.9	87	36.9	140	42.0	198	49.7	167	45.3	46	56.8	7	38.9
③わからない	506	35.3	119	50.4	130	39.0	124	31.2	108	29.3	20	24.7	5	27.8
④期待しない	92	6.4	15	6.4	23	6.9	23	5.8	24	6.5	5	6.2	2	11.1
⑤その他	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.2	0	0.0
計	1,435	100	236	100	333	100	398	100	369	100	81	100	18	100

8) 海外での看護研修や海外の大学や病院との学術交流

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
⑤ その他 ()

Ⅱ 問5-8. 海外研修、大学・病院との学術交流	合計 (n=1,434)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	175	12.2	19	8.1	38	11.4	43	10.8	60	16.3	10	12.5	5	27.8
②期待する	524	36.5	82	34.7	112	33.5	146	36.6	145	39.5	34	42.5	5	27.8
③わからない	591	41.2	116	49.2	147	44.0	163	40.9	129	35.1	30	37.5	6	33.3
④期待しない	143	10.0	19	8.1	37	11.1	47	11.8	32	8.7	6	7.5	2	11.1
⑤その他	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.3	0	0.0	0	0.0
計	1,434	100	236	100	334	100	399	100	367	100	80	100	18	100

1)～4)の表の通り、昼夜開講、長期履修、集中履修、遠隔授業に半数程度の方が期待を寄せていた。これらについては、約4割の方がわからないと答えており、それぞれどういったものなのか説明の必要が考えられた。5)の表の通り、e-ラーニングについては、7割近い方が期待を示しており、わからないとする方の割合は3割を切っていた。6)の表の通り、資格取得に対しての期待は極めて高かった。7)8)の表からは、他大学の大学院や、海外での研修や海外の大学・大学院との交流について半数程度の方が期待を寄せていることが理解できた。海外の施設との交流については「わからない」とする方が4割を超えており、内容の説明が必要であることが伺えた。

問6. 専門看護師養成課程の併設についてお答えください。該当するものに○をつけてください。

1) 専門看護師養成課程の併設

- ① 希望する ② 希望しない

Ⅱ 問6-1. 専門看護師養成課程	合計 (n=1,411)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①希望する	1,001	70.9	151	64.5	254	76.5	298	74.9	239	66.9	48	64.0	11	73.3
②希望しない	410	29.1	83	35.5	78	23.5	100	25.1	118	33.1	27	36.0	4	26.7
計	1,411	100	234	100	332	100	398	100	357	100	75	100	15	100

2) 「1) で①希望する」とお答えになった方のみ、希望される専門看護師を選択してください。(複数回答可)

- ① がん看護 ② 精神看護 ③ 地域看護 ④ 老人看護 ⑤ 小児看護 ⑥ 母性看護
⑦ 慢性疾患看護 ⑧ 感染症看護 ⑨ 急性・重症患者看護 ⑩ 家族看護 ⑪ 在宅看護

Ⅱ 問6-2. 希望専門看護師	合計 (n=978)		20代 (n=149)		30代 (n=244)		40代 (n=295)		50代 (n=233)		60代以上 (n=46)		不明 (n=11)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①がん看護	500	51.1	80	53.7	128	52.5	148	50.2	114	48.9	26	56.5	4	36.4
②精神看護	206	21.1	19	12.8	50	20.5	54	18.3	68	29.2	13	28.3	2	18.2
③地域看護	382	39.1	43	28.9	79	32.4	119	40.3	115	49.4	21	45.7	5	45.5
④老人看護	348	35.6	33	22.1	76	31.1	107	36.3	107	45.9	20	43.5	5	45.5
⑤小児看護	150	15.3	16	10.7	56	23.0	34	11.5	33	14.2	10	21.7	1	9.1
⑥母性看護	137	14.0	24	16.1	41	16.8	31	10.5	34	14.6	5	10.9	2	18.2
⑦慢性疾患看護	296	30.3	40	26.8	86	35.2	75	25.4	77	33.0	17	37.0	1	9.1
⑧感染症看護	203	20.8	18	12.1	55	22.5	63	21.4	54	23.2	10	21.7	3	27.3
⑨急性・重症患者看護	268	27.4	51	34.2	77	31.6	75	25.4	54	23.2	9	19.6	2	18.2
⑩家族看護	216	22.1	18	12.1	57	23.4	60	20.3	65	27.9	12	26.1	4	36.4
⑪在宅看護	421	43.0	49	32.9	91	37.3	137	46.4	112	48.1	25	54.3	7	63.6
計	3,127	—	391	—	796	—	903	—	833	—	168	—	36	—

7割の方が、CNSコースの併設を期待されており、多くのコースで設置希望があったが、特に高かったのはがん看護、在宅看護、地域看護、老人看護のCNSコースであった。

問7. 看護職員（保健師、看護師など）を養成する大学、大学院等に在学している学生で、卒業後、鳥取県内で看護職員の業務に従事する意思のある方に貸付する鳥取県の「看護職員修学資金」制度をご存じでしたか。(大学院修士課程の場合 83,000円/月) 該当するものに○をつけてください。

- ① 知っていた ② 知らなかった

Ⅱ 問7. 看護職員修学資金	合計 (n=1,390)		20代		30代		40代		50代		60代以上		不明	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①知っていた	391	28.1	75	32.9	76	23.2	95	24.2	117	33.0	23	31.9	5	33.3
②知らなかった	999	71.9	153	67.1	251	76.8	298	75.8	238	67.0	49	68.1	10	66.7
計	1,390	100	228	100	327	100	393	100	355	100	72	100	15	100

回答者の7割以上が「知らなかった」と答えたため、今後説明に必要性があると考えられた。また本アンケートによって、その存在をある程度周知することもできたと思われる。

問 8. その他、大学院(修士課程)設置に関するご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

84名の方から自由記載でご意見をいただいた。内容ごとに分類すると、概ね肯定的な意見が50名より、否定的な意見が24名、その他どちらとも取れないものが10名から得られた。
肯定的な意見としては、「働きながら学べるのならば、ぜひ進学したい」「子育てしながらでも可能なら進学したい」など明らかな進学の意味が示されていたものが7名、自身の大学院進学が可能となる条件について期待を込めて挙げられる方が8名、「自分自身は進学しないかもしれないが、若い人や、向上心のある人に機会があるのは鳥取県の看護にとって良いこと」という意見が18名、授業料を気にされている方が4名、大学院の修了生へ求める素養について語られる方が2名、「県内の看護のレベルアップのために期待している」という意見が3名、他にない特色をしっかりと打ち出し、広告をしっかりと行うべきという設立へのアドバイスが2名、大学院ができることによる研修会の開催などへの期待が2名、仕事と両立ではなく就学に専念すべきだという意見が2名、中には「学びたい気は十分あるが、経済的余裕がない。余裕のある方だけが進学できるのかと思うと複雑である」という意見もあった。

否定的な意見としては、学歴が高いだけで実践が伴わないような方が増えることに反対という意見が11名、鳥取大学だけで十分であるという意見が5名、大学院を修了しても鳥取県中部では給与や役職などの労働条件の改善はないため意味がないという意見が4名、大学教育の充実が優先課題であるとのご意見が3名より、「夜は大学院があるから夜勤ができないという看護師が増えると困る」という意見もあった。
その他には、大学と大学院を混同されていたり、認定看護師が大学院で取れると誤解されていたりするなど、誤解を含む意見が7名、自身の現場の課題を語られる方が3名あった。

	内 容
1	働きながら進学できるならばまだ勉強したいです
2	大学院・専門看護師・認定看護師の道は鳥取県内に在住しているとなかなか無理と考えていた。先への光が見えてきたような期待を感じる。
3	ある程度の年齢で准看の人が経験年数を考慮し、進学できたらいいと思う。 優秀な人材はたくさんおられると思います。
4	将来はわからないが、他者も上をめざす人が多いので、医大だけでなく、そういう学校は増えればいい。
5	就職のためのNsをめざし、実際とのギャップで辞職する子も多い。頭だけかしこくなっても意味がない。 実際の現場で大学院で学び、活用できることは何なのか知りたい。
6	卒業後、できれば地元(設置場所)に就職していただけたら看護人材の不足にも良い成果が得られるのではないかと思います。
7	大学での看護の考え方、教育方針など、聴く事があり勉強になった。大学院での活動や学習についても発信していただければ私達にもメリットが多いと思う。
8	これからの看護師さん達には、大学という選択肢が鳥取にあっても良いと思う。
9	以前、慢性期看護(難病看護)が学びたく、ある大学の資料を取り寄せたことがありました。結局、経費の問題と、その後復職出来ないことから、家族からも賛同は得られずあきらめました。この山陰で学ぶ場とチャンスがあれば若い方に是非、働きながらも学んで欲しいと思います。

	内 容
10	県内の大学院設置期待します。将来、子供達の進学の可能性が広がると思います。
11	地域により看護師が育ってくれる制度ができることに期待します。大学院設置に期待します。
12	学習・研究の成果が現場で生かせるような志の高い方が増えたらよいと思います。
13	県内で大学院設置に対するニーズがどれほどあるのかはわかりませんが、鳥取内の看護の質の向上に寄与できるのであれば大いに賛成いたします。
14	鳥取県内の人、鳥取県で将来働きたいと思っている人をいっぱいとったらいいと思う。大学進学できずに専門学校に進学したので…。国際的視野も広めたらいいと思う。仕事を辞めて海外に行こうと思ってるので、もっと早く選択肢の1つになっていたら…と思いました。
15	リーダーシップを発揮できる看護者となってほしい
16	子供に進学させたい
17	県内にあれば、子育て世代も進学しやすくて良い！！
18	e-ラーニングなど、自宅等で自由な時間を利用して学習できる方法を、大いに活用していただきたいです。
19	大学院での更なる知識が学べれば看護師としてスキルアップできると考えます。メンタルケアでの重要性が技術だけではないと痛感している。
20	身近な場所に大学院があることで、学びのチャンスが広がります。子育て中でもがんばれば進学を考えることができる。
21	地域活性化の為に大いに期待しています。
22	若い方が大学院へすすみ活躍される事に期待はしています。
23	私は15年以上、社会人を経験したのち、夢を叶えるために看護学校へ入学し、今年看護師になることができました。臨床に出てみると、次から次と学びたいことが増え、数年後チャンスがあればとの思いもあり、その場(大学院)が鳥取にあれば希望になります！
24	“子育て王国鳥取”をかかげている鳥取県。中部にある大学として、不妊や母性に関する課程があると良いのではと思います。また、修士課程のみならず、様々な資格取得に関する課程(コース)も設置されることを望みます。 働きながら、学業(＋家庭)との両立は負担が大きいので、学業に専念できる制度の方が良いように思います。学習するにあたり、負担の少ない事はないとは思いますが…。働きながらだと勤務調整も交代勤務なので大変だと思います。

	内 容
25	今回の学校教育法の改正には大いに期待します。私自身、短大卒のため、学びたかった院にすすめず悔しい思いをしました。後輩たちに道が開けたことをうれしく思います。鳥取近辺は学べるところが少なく、ましてや中・小の病院の人々は休みもままなりませんので、倉吉という地域で働きながら、院での履修が可能になることには大きな意義があります。
26	働いている看護師でもさらに専門性を高めるため通学できる環境があることは、今後の看護師の質の向上にもつながると思う。
27	必要かどうかはわからないが学びたいと思う人がいるのなら設置すべきだと思う。
28	どんどん学習するフィールドを広げて、より質の高い看護を修得したいと思っても、日々の業務で手がいっぱいです。経済的にも余裕がなく、大学なんて今更、縁がないと思っていましたが、もっと身近になるといいなと感じました。これからは後輩育成が重要課題ですので、そのためのスキルアップを身につけたいと強く願っています。もっとハードルが下がると目指せるのかもしれませんが。
29	大学院はあっても良いと思うが、今現在、育児休暇や時間短縮勤務を希望するスタッフが増え、どこの施設も夜勤ができる人材を確保するのが大変なのに、籍をおきながら勉強に行く、昼だけ働いて夜は大学院へ、という人が増えるのは困る。学ぶことは大切ですが、実践のできる看護師を育成してくださるようお願いします。
30	大学院設置はとてもいいと思いますが、学生を集めたり、全国の方々によりよく知ってもらうための効果的な宣伝が必要だと思います。オリジナルの特色を作っていってほしいと思います。
31	学科だけでは実際卒業した時に実践力にかけると。その為には実習期間を長期にしてもらい技術を取得してもらう方が速戦力になる。現場では看護師はとても重要な役割をしている。私達の頃は寄属しながらの学生生活をしていた時代だった。大変でしたが今では、それがとても活かされており、離職する人が少なかった。やはり現場実習で得られることは大事です。
32	50才を越えた今でも学びたい意欲はあり、更に高まっているが、現在の収入を落とすことは家庭状況からすると厳しく、又、どっぷり学業に専念することは難しい現状です。この様な思いをもっている現場のNSはたくさんいると思います。結果この様な良い場がつけられても、実際大学院に進める者は限られた(独身者)人になるのかと思います。 認定看護師についても同様の事が考えられ、資格取得者の実態は期待されるその専門性を発揮出来ていません。 多くの病院の管理者からもれ聞かれる実態は「管理者コースから外れた人が、現場のケア等から逃れるためにその方面に向かっている」という声を県内外の方から耳にしています。同感です。(余談でした)
33	大学・大学院を経て学歴的にレベルの高い看護師が増えることには賛成です。とても良い事だと思う。しかし、知識や教養ばかりがすごくて、臨床の場ではあまり役に立たない、役に立たないどころか、人間関係をうまく築けない(空気を読めない、プライドばかり高い)人物がたくさんいると思う。だからあまり興味をもてない。人としてリスペクトできるかどうかが一番大事。知識等は私にとって二の次。修士課程を得ている人はすごいなと思う。プラス人としてリスペクトできたら完璧。ただ、今まで見たこと会ったことなし。
34	勤務をしながらでも学ぶことができるシステムがもっと増えてほしい
35	キャリアも必要ですが、現役の看護師、看護職が必要とされたいと思います。

	内 容
36	授業料がパソコン・ネットが入ることで上がらなければ良いと思います。研究支援についての学習が多彩だと良いと思います。
37	実際に働きながらの学習は大変だと思いますが、資格取得したい場合には必要な設置かと思います。ただ、大学で学んだから「出来る人間」とは限りません。やはり実際の臨床で経験を つんで成長することが大切であり、頭でっかちな看護師とならない事を願います。
38	授業料(年間)は、他の大学生と同じ位になるのでしょうか？どれ位で設定されているのでしょうか？金額によっては進学を考えたいと思います。
39	修士課程を取得するにおいて、仕事(現場)をこなしながらという中途半端な思いでは、良い研究内容は完成しないのではと個人的には考えます。長期ではなくて規制年内にしっかりした学習内容で看護職の評価を向上させられるような修士課程を検討していただきたいです。
40	良い先生につけるなら学びたい。海外や県外の大学とつながれる人がいるのは心づよいと思う。
41	西部から通学しやすい場所にしてほしい。仕事と両立できるとうれしい。通信教育卒業の学歴でも入れないと対象ではないので、ぜひ、対象としてほしいです。
42	専門看護師の資格取得ができるようになったら行ってみたいです
43	認定看護師養成はできないのでしょうか。
44	大学内保育所があったら最高です。
45	鳥取県内にも修士や博士を取得されている方もおられるのでしょうか、どのように活躍されているのでしょうか。目に見えるものがないのでは単に資格取得で終わってしまうのでは？と一般の看護師として考えてしまいます。 鳥取県は遅れていると思う。専門看護師として県内で認められるのであれば必要。院内として学びだけではやはり不足であるし、学びの場が近い場所に置いてあり、身近なテーマが選ばれていることは良いと思う。 学び続けるという意欲の低い看護師が多くなっていると思う。“地域が求める”“我々看護師が求める”…なんなのでしょうか。新しい試みは大変でしょうが、頑張って成功させて下さいませ！
46	修士課程を終えて臨床現場に入っている看護師は知識は豊富かもしれないが、イコール優秀な看護師とは言えないと思う。大学院まで設置する意義がよく分からないと思う事もあります。
47	地域に学習環境が整っていないせいで他県Nsよりも専門職であること、学び続けることの必要を考えているNsが少ないように思う。
48	大学院の学生は、実習は大学附属の病院でされるのですか？院生の卒業生がいない病院で指導する人が居ないのではないかと思います。又、負担でもあります。
49	鳥大病院にある大学院では学べないことを学べるのであれば開設する意義はあると思います。差別化を図らなければいけないと思います。

	内 容
50	情報についてもっとアピールしてほしい。問51についてなどよく知らなかった。学士取得についての事は知っていたが、何年かかけて資格取得は大学院にすすむしか道はないと思っていた。若い人に向け、もっと情報を流してほしい。(私はもう無理だと思うが…)
51	経済的な不安や仕事の再開時の不安が少ないような仕組みが必要
52	どんどん、専門化、高学歴化しているが、弊害もあることをお忘れなく。
53	仕事と両立可能な形態を希望。通信制ありで。 学費がどの程度になるのかも気になります。
54	年をとってから学べるようなコースも検討して欲しい
55	キャリアアップに興味があっても、家庭・子育てがあると、進学や県外での施設で学ぶことは難しいと感じています。実際に出来たとして、自分が進学するとは言えませんが、あれば1つの学びの方法として、とても良いと思います。
56	在学していなくても参加できる研修会をふやしてほしい。
57	大学を設置される場合、地域の安全性なども考えてほしい。鳥取は人口が少なく、夜は早く人通りが少なくなり、街の灯りが暗くなります。その辺りのことなどを含め、寮や交通手段の確保を検討していただけると幸いに思います。
58	看護の視点だけでなく、経営面の視点ももち、病院経営に看護師も参画すべきだと思う。その上で自分たちの看護力を十分に理解し、力を発揮できるようにする。
59	現場は人手不足です。増員になればと思います。
60	大学院を設置するのであれば、指導教官には研究業績の十分ある人であることが必要だと思います。学術論文を書いた経験が少ない教官から研究指導を受けることの無いように、指導教官には充実した人材を確保して欲しいです。
61	もっと広告、あるいは病院の推薦などあれば、鳥取県全体のレベルアップ、病院個人のレベルアップにつながり、働きがいが増すと思う。
62	母体となり支える病院がないのに看護大学に大学院を設置しても意味が薄い。 鳥大医学部内に大学院看護過程を設立したほうがより深い研究が行えるのではないか。
63	人員・内容共にムダがないようにして頂きたい。
64	授業料が高すぎる。
65	すばらしい知識を修得され、現場に出ても現場の労働条件が悪いのもったいない。長く仕事を続けていくためには現場の改善が必須。みんなつぶされる。

	内 容
66	学生が集まるか疑問
67	県内にある他の看護大学と相談して、県内で複数なくてよいと思う。
68	鳥取大学(国立)があるので必要ないと思う。看護大学の乱立でレベルの低い学校が増えたように感じる。(実習性の態度から)そのような大学で修士を取っても肩書きだけだと思う。県はもっと違うところにお金を使ってほしい。
69	頭でっかちが増えないようにお願いします。私は現場主義なので
70	看護大学スタートしたばかりなのでその結果を見守りつつ考慮すれば良いと思う
71	関心はあるが、仕事をしながら進学する余裕がない。
72	倉吉の病院では大学・短大卒でも給与など何も変わらない所(私病院)があり、意味がないと思う。
73	頭でっかちであいさつもできない子たちが進んでいくのなら心配ですが、まわりまわって患者さんのためになるのなら応援します。大学院の設置の前に、現在の学生指導の充実を求めます。
74	大学院を卒業しても実際看護師としての能力もある程度養って欲しい
75	倉吉市が発展していないので、何かとお金のかかる地域であり、住みにくいところである。よって、大学生にとっては不便だと思う。給与基準も鳥取県は低いので、養成しても県外へ出られる方の方が多いのではないかと。自分自身も若い頃は関西で働いていましたので…。
76	鳥大があるので、そちらでよいと思います。
77	看護職が今後、鳥取県内で飽和状態になる可能性ある中で、大学院まで必要なのかわからない。教育が違うかもしれませんが、病院現場では教養より実践できる看護師が必要だと思われる。結論から言えば修士課程設置は必要ないと思う。
78	貴大学がどのように機能しているのかわからない。大学院の有無の検討はまだ早いのでは
79	鳥取大学との違いな何か…2つもいらないのではないかと？
80	修士課程(専門認定など)を取得できても、活かせる職場環境とは思えず、業務だけが増えると思う。医師の認識、意思、意識改善がされない限り、鳥取県中部はNsに対してかわれないと思う。
81	自分自身が最終学歴(高校)なので大学に行くとかという話は、無縁だと思ってます。

	内 容
82	教育を受ければ受けるほど、患者の存在が希薄になりつつあるように思う。常識も知らない子が増えてる中、頭でっかちな子ばかりふえ、本来ある看護職の意味を忘れてほしくない。
83	需要がどれくらいあるかで違ってくるが、鳥大との2大学が鳥取に必要なのでしょうか。学生の取り扱いとか、指導教官の問題は発生しないのでしょうか。 高い知識・意識を持った方が鳥取の看護職員を引っぱって行ってくれる事は大いに期待します。
84	学歴だけで社会性の乏しい若い方が多いような気がします。

Ⅱ. 保健師への調査

1. 調査概要

- 1) 調査の目的 本調査は、平成31年4月開設に向けて構想中である鳥取看護大学大学院看護学研究科修士課程(仮称)(以下、本大学院)に対する学生募集ニーズを、将来の主要な入学予定者として想定している鳥取県内の現職の保健師を対象に、アンケート調査によって計測することを目的としたものである。
- 2) 調査期間 平成29年10月
- 3) 調査方法 調査対象者である現職の保健師に対し、勤務先を通して返信用封筒に入れたアンケート用紙を個人に配布していただき、各自の判断で記入したのち大学宛に投函していただく。なお、返送をもって調査に同意を得たものとする。
無記名かつ返送は回答者の自由意思に任されているため、調査の任意性、匿名性、客観性は十分に担保されている。
- 4) 調査対象者 現職の保健師
- 5) 調査内容 17問の選択肢式または記述式質問、1問の自由記述
調査依頼書およびアンケート調査用紙は別紙のとおり
- 6) 有効回答数 110 (配布数235部、有効回答率 46.8%)

2. 調査方法と調査実施件数

本大学院は、鳥取県内の現職の看護職者を主要な入学予定者として想定している。今回のニーズ調査では、鳥取県内の県および市町村の保健所から22施設に勤務する保健師に協力をいただいた。

アンケート用紙の配付部数は235部であり、有効回答数は110、有効回答率は、46.8%であった。アンケートは匿名であるため、回答者がどの事業所に所属しているかは不明である。

アンケート調査を依頼した保健所および保健師

	保健所	保健師数
1	19市町村	196
2	鳥取県鳥取保健所	17
3	鳥取県倉吉保健所	8
4	鳥取県米子保健所	14
	合計	235

3. 調査結果および分析

※各設問、空欄(無回答)は有効回答数から除外

I. ご自身についてお尋ねします。

問1. 所属の施設がある地域について、該当するものに○をつけてください。

① 鳥取県東部 ② 鳥取県中部 ③ 鳥取県西部

I 問1. 所属施設	合計 (n=109)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①鳥取県東部	52	47.7	8	47.1	16	51.6	17	51.5	10	37.0	1	100.0
②鳥取県中部	23	21.1	5	29.4	4	12.9	7	21.2	7	25.9	0	0.0
③鳥取県西部	34	31.2	4	23.5	11	35.5	9	27.3	10	37.0	0	0.0
計	109	100	17	100	31	100	33	100	27	100	1	100

所属施設の所在地については109件回答があり、東部、中部の方が約7割(75件)を占めており、特に本大学院の対象となる方々からのご意見をを得ることができた。

問2. 性別について、該当するものに○をつけてください。

① 男性 ② 女性

I 問2. 性別	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
男	1	0.9	1	5.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
女	109	99.1	16	94.1	31	100.0	34	100.0	27	100.0	1	100.0
計	110	100	17	100	31	100	34	100	27	100	1	100

ほぼ女性であったが、1名の男性からの回答があった。

問3. 年齢をご記入ください。

I 問3. 年齢	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
計	110	100	17	15.5	31	28.2	34	30.9	27	24.5	1	0.9

年齢構成については、40代が一番多く30.9%で、30代28.2%、50代24.5%と続き、概ね様々な年代の方からの回答が得られた。

問4. 最終教育機関について、該当するものに○をつけてください。

① 高等学校(高校専攻科含む) ② 専門学校 ③ 短期大学 ④ 大学
⑤ 大学院(修士課程) ⑥ 大学院(博士課程) ⑦ その他 ()

I 問4. 最終教育機関	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①高等学校(高校専攻科含む)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
②専門学校	53	48.2	1	5.9	5	16.1	22	64.7	25	92.6	0	0.0
③短期大学	13	11.8	1	5.9	1	3.2	8	23.5	2	7.4	1	100.0
④大学	37	33.6	14	82.4	21	67.7	2	5.9	0	0.0	0	0.0
⑤大学院(修士課程)	6	5.5	1	5.9	4	12.9	1	2.9	0	0.0	0	0.0
⑥大学院(博士課程)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑦その他	1	0.9	0	0.0	0	0.0	1	2.9	0	0.0	0	0.0
計	110	100	17	100	31	100	34	100	27	100	1	100

⑦その他 短期大学専攻科

専門学校卒の方が、約5割を占めており、短大卒が11.8%、大卒は33.6%占めていた。これらを合わせると約93%の方が、本大学院の入学対象となられる方と言える。また、博士課程は一人もおらず、修士課程と答えた方は6名で5.5%含まれていた。

問5. 1998年の学校教育法改正により、専門学校や短期大学を卒業し、看護職としてのキャリアがあり、研究課題をもっていれば大学院に直接進学することが可能になっていることをご存知でしたか。該当するものに○をつけてください。

① 知っていた ② 知らなかった

I 問5. 直接進学	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①知っていた	33	30.0	4	23.5	8	25.8	11	32.4	10	37.0	0	0.0
②知らなかった	77	70.0	13	76.5	23	74.2	23	67.6	17	63.0	1	100.0
計	110	100	17	100	31	100	34	100	27	100	1	100

知らなかった人が、70%を占めていた。前にも述べた通り、これまで進学という事を考えたこともなかった保健師が多く含まれると考えられた。本アンケートは、そういった方に自身のキャリア形成を再考いただく機会を与えたと考える。

問6. 看護職（看護教員の経験も含む）として、通算経験の年数・月数の数字をご記入ください。

I 問6. 勤務年数	合計 (n=106)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1～5年	23	21.7	16	94.1	3	10.0	4	12.5	0	0.0	0	0.0
6～10年	18	17.0	1	5.9	15	50.0	1	3.1	1	3.8	0	0.0
11～20年	26	24.5	0	0.0	12	40.0	14	43.8	0	0.0	0	0.0
21～30年	24	22.6	0	0.0	0	0.0	13	40.6	11	42.3	0	0.0
31年以上	15	14.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	14	53.8	1	100.0
計	106	100	17	100	30	100	32	100	26	100	1	100

勤続年数は、11～20年、21年～30年が一番多かったが、概ね様々な勤続年数の方々に回答いただけた。

問7. お持ちの資格すべてに○をつけてください。

- ① 看護師 ② 保健師 ③ 助産師 ④ ケアマネージャー
 ⑤ 認定看護師（分野： ）
 ⑥ 専門看護師（分野： ）
 ⑦ 養護教諭
 ⑧ 認定看護管理者（サードレベル）
 ⑨ その他（ ）

I 問7. 所持資格	合計 (n=110)		20代 (n=17)		30代 (n=31)		40代 (n=34)		50代 (n=27)		60代以上 (n=1)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①看護師	107	97.3	17	100.0	31	100.0	32	94.1	26	96.3	1	100.0
②保健師	110	100.0	17	100.0	31	100.0	34	100.0	27	100.0	1	100.0
③助産師	38	34.5	0	0.0	3	9.7	16	47.1	18	66.7	1	100.0
④ケアマネージャー	30	27.3	0	0.0	3	9.7	10	29.4	17	63.0	0	0.0
⑤認定看護師	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑥専門看護師	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑦養護教諭	38	34.5	4	23.5	9	29.0	17	50.0	8	29.6	0	0.0
⑧認定看護管理者(サードレベル)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑨その他	14	12.7	0	0.0	3	9.7	4	11.8	7	25.9	0	0.0
計	337	—	38	—	80	—	113	—	103	—	3	—

⑨その他	件数
運動指導士	1
衛生管理者	5
介護福祉士	1
産業カウンセラー	1
精神保健福祉士	4
第一種衛生管理者	1
臨床美術士4級	1
総計	14

保健師資格所持者は100%、看護師資格は97.3%、助産師34.5%が所持していた。助産師の資格は年齢が高くなるにつれて所持されている方が多くなっていた。ケアマネジャーは27.3%の方が取得され、40～50代の方が多かった。養護教諭は34.5%が資格取得されていた。専門看護師を取得されている方はなかった。

問8. 現在どのような職種で仕事をされていますか。該当するものに○をつけてください。
(複数回答不可)

① 看護師 ② 保健師 ③ 助産師 ④ 看護教員 ⑤ その他 ()

I 問8. 現在の職種	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①看護師	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
②保健師	107	97.3	17	100.0	30	96.8	34	100.0	25	92.6	1	100.0
③助産師	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
④看護教員	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑤その他	3	2.7	0	0.0	1	3.2	0	0.0	2	7.4	0	0.0
計	110	100	17	100	31	100	34	100	27	100	1	100

⑤その他	件数
ケアマネジャー	2
行政職(福祉保健課長)	1
総計	3

本調査に回答くださったほとんどの方が保健師として在籍していた。

問9. 現在、勤務の施設について、該当するものに○をつけてください。

① 病院 ② 教育機関 ③ 訪問看護ステーション ④ 行政機関
⑤ その他 ()

I 問9. 勤務施設	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①病院	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
②教育機関	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
③訪問看護ステーション	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
④行政機関	110	100.0	17	100.0	31	100.0	34	100.0	27	100.0	1	100.0
⑤その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	110	100	17	100	31	100	34	100	27	100	1	100

本調査に回答くださったすべての方は行政機関にご勤務の方であった。

問10. どのような立場で仕事をされていますか。該当するものに○をつけてください。

① スタッフ ② 係長 ③ 課長 ④ その他 ()

問10. 立場	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①スタッフ	73	66.4	16	94.1	30	96.8	19	55.9	7	25.9	1	100.0
②係長	19	17.3	0	0.0	1	3.2	10	29.4	8	29.6	0	0.0
③課長	6	5.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	22.2	0	0.0
④その他	12	10.9	1	5.9	0	0.0	5	14.7	6	22.2	0	0.0
計	110	100	17	100	31	100	34	100	27	100	1	100

④その他	件数
主任	1
事務職	1
任期限定職員	1
課長補佐	5
主幹	1
次長	1
総計	10

本調査に回答くださった方の2/3はスタッフとして勤務され、1/3は管理職であった。

Ⅱ. 鳥取看護大学の大学院設置について、あなたのご意見をお聞かせください。

問 1. 鳥取看護大学大学院（修士課程）の設置は必要だと思いますか。該当するものに○をつけてください。

- ① ぜひ設置して欲しい ② できれば設置して欲しい ③ どちらともいえない
④ 設置の必要はない ⑤ その他（ ）

Ⅱ 問1. 設置の必要性	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①ぜひ設置して欲しい	12	10.9	0	0.0	4	12.9	3	8.8	5	18.5	0	0.0
②できれば設置して欲しい	39	35.5	4	23.5	8	25.8	13	38.2	13	48.1	1	100.0
③どちらともいえない	53	48.2	9	52.9	18	58.1	17	50.0	9	33.3	0	0.0
④設置の必要はない	3	2.7	2	11.8	1	3.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
⑤その他	3	2.7	2	11.8	0	0.0	1	2.9	0	0.0	0	0.0
計	110	100	17	100	31	100	34	100	27	100	1	100

⑤その他	件数
大学4年間の保健師課程を廃止し、大学院の修士課程において保健師を養成すべきである。そのために設置することは必要だと考える。	1
学費によります。子どもがいると金銭的に難しい部分があります。	1
総計	2

「ぜひ設置して欲しい」「できれば設置して欲しい」を合わせると46.4%の方が設置を望んでいる結果が得られ、年代が上がるにつれて増える傾向にあった。設置の必要性がないという方は全体で2.7%に過ぎなかった。

問 2. 鳥取看護大学大学院を設置した場合、進学したいと思いますか。該当するものに○をつけてください。

- ① ぜひ進学したい ② 条件が合えば進学したい ③ 将来、進学するかもしれない
④ 進学する予定はない ⑤ 修士課程を修了している
⑥ その他（ ）

Ⅱ 問2. 鳥取看護大学大学院へ	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①ぜひ進学したい	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
②条件が合えば進学したい	16	14.5	2	11.8	5	16.1	5	14.7	4	14.8	0	0.0
③将来、進学するかもしれない	8	7.3	4	23.5	2	6.5	2	5.9	0	0.0	0	0.0
④進学する予定はない	81	73.6	11	64.7	22	71.0	24	70.6	23	85.2	1	100.0
⑤修士課程を修了している	3	2.7	0	0.0	2	6.5	1	2.9	0	0.0	0	0.0
⑥その他	2	1.8	0	0.0	0	0.0	2	5.9	0	0.0	0	0.0
計	110	100	17	100	31	100	34	100	27	100	1	100

⑥その他	件数
考えたことがなかったので、今の段階では何とも言えません。	1
分からない	1
総計	2

ご自身の進学の意志については、「ぜひ進学したい」という方が0人であった。しかし「条件が合えば進学したい」という方は110名中16名(14.5%)もあり、30代～50代の方々であった。これらの方は、臨地や組織の中で出会う多くの課題について学びなおしてみたいと考えられている可能性がある。自身の職務上の責任を果たすことに生きがいを感じつつ、より能力の高い看護専門職として成長する道を模索する体制にある方が多いことが伺えた。「将来進学するかもしれない」という方は20～30代に多かった。

- 問3. 「問2で、①または②」と答えた方に伺います。大学院で学ぶ場合、どのような資質の向上を期待しますか。該当するものに○をつけてください。（複数回答可・2項目以内）
- ① 実践能力 ② 看護判断能力 ③ 療養支援能力 ④ 健康支援能力 ⑤ 調整力
 ⑥ 研究力 ⑦ 教育力 ⑧ 管理能力 ⑨ 資格の取得
 ⑩ その他（ ）

Ⅱ 問3. 資質向上	合計 (n=16)		20代 (n=2)		30代 (n=5)		40代 (n=5)		50代 (n=4)		60代以上 (n=0)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①実践能力	9	56.3	2	100.0	1	20.0	3	60.0	3	75.0	0	0.0
②看護判断能力	1	6.3	0	0.0	1	20.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
③療養支援能力	1	6.3	0	0.0	0	0.0	1	20.0	0	0.0	0	0.0
④健康支援能力	4	25.0	0	0.0	1	20.0	2	40.0	1	25.0	0	0.0
⑤調整力	3	18.8	0	0.0	1	20.0	1	20.0	1	25.0	0	0.0
⑥研究力	6	37.5	1	50.0	2	40.0	1	20.0	2	50.0	0	0.0
⑦教育力	2	12.5	1	50.0	0	0.0	1	20.0	0	0.0	0	0.0
⑧管理能力	4	25.0	0	0.0	1	20.0	1	20.0	2	50.0	0	0.0
⑨資格の取得	5	31.3	0	0.0	3	60.0	2	40.0	0	0.0	0	0.0
⑩その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	35	—	4	—	10	—	12	—	9	—	0	—

問2で「条件が合えば進学したい」と答えた16名を対象に、大学院で向上させたい資質の内容について行った質問で、16名全員から回答があった。回答内容として最も多かったのは、実践能力9名(56.3%)で、研究力は6名(37.5%)、資格の取得5名(31.3%)、管理能力4名(25.0%)健康支援能力4名(25.0%)、調整力3名(18.8%)、と続き、教育力、看護判断能力も1人が挙げられていた。

- 問4. 「問2で、①または②」と答えた方に伺います。鳥取看護大学大学院に進学したと想定し、本学が設置を予定している次のコースのうち、あなたはどちらを希望しますか。該当するものに○をつけてください。
- ① 地域包括ケア看護コース
 ② 地域メンタルヘルスコース
 ③ 地域家族子育て支援看護コース
 ④ 国際地域看護コース

Ⅱ 問4. 希望コース	合計 (n=15)		20代 (n=1)		30代 (n=5)		40代 (n=5)		50代 (n=4)		60代以上 (n=0)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①地域包括ケア看護コース	8	53.3	0	0.0	4	80.0	2	40.0	2	50.0	0	0.0
②地域メンタルヘルスコース	5	33.3	0	0.0	1	20.0	4	80.0	0	0.0	0	0.0
③地域家族子育て支援看護コース	3	20.0	0	0.0	0	0.0	1	20.0	2	50.0	0	0.0
④国際地域看護コース	1	6.7	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	17	—	1	—	5	—	7	—	4	—	0	—

問2で「条件が合えば進学したい」と答えた16名を対象に、本大学院で予定しているコースの希望について伺ったもので、15名から回答があり、1名は回答がなかった。地域包括ケアをテーマとしたコースは最も人気があり8名(53.3%)もの方の希望があった。メンタルヘルスをテーマとしたコースが5名(33.3%)、子育て支援をテーマとしたコースが3名(20.0%)、国際看護をテーマとしたコースは1名(6.7%)であった。国際看護は20代の若い世代にニーズであった。

問5. 大学院の特徴として、以下の項目についての期待度を聞かせてください。該当するものに○をつけてください。

1) 昼夜開講制度（夜間や休日を併用する制度）

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
⑤ その他（ ）

Ⅱ 問5-1. 昼夜開講制度	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	14	12.7	3	17.6	4	12.9	4	11.8	3	11.1	0	0.0
②期待する	53	48.2	5	29.4	15	48.4	17	50.0	15	55.6	1	0.0
③わからない	34	30.9	8	47.1	11	35.5	8	23.5	7	25.9	0	0.0
④期待しない	8	7.3	1	5.9	1	3.2	5	14.7	1	3.7	0	0.0
⑤その他	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.7	0	0.0
計	110	100	17	100	31	100	34	100	27	100	1	0

2) 長期履修制度（勤務をしながら、2年間の内容を3年または4年で履修する長期履修の制度）

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
⑤ その他（ ）

Ⅱ 問5-2. 長期履修制度	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	13	11.8	1	5.9	4	12.9	5	14.7	3	11.1	0	0.0
②期待する	59	53.6	7	41.2	17	54.8	18	52.9	16	59.3	1	100.0
③わからない	31	28.2	8	47.1	10	32.3	7	20.6	6	22.2	0	0.0
④期待しない	6	5.5	1	5.9	0	0.0	4	11.8	1	3.7	0	0.0
⑤その他	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.7	0	0.0
計	110	100	17	100	31	100	34	100	27	100	1	100

3) 集中履修（1年間、現場を離れて大学院の学業に専念し、2年目は現場に復帰して修論をまとめる方法）

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
⑤ その他（ ）

Ⅱ 問5-3. 集中履修	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	8	7.3	2	11.8	2	6.5	2	5.9	2	7.4	0	0.0
②期待する	32	29.1	5	29.4	7	22.6	10	29.4	9	33.3	1	100.0
③わからない	50	45.5	8	47.1	20	64.5	16	47.1	6	22.2	0	0.0
④期待しない	15	13.6	2	11.8	1	3.2	6	17.6	6	22.2	0	0.0
⑤その他	5	4.5	0	0.0	1	3.2	0	0.0	4	14.8	0	0.0
計	110	100	17	100	31	100	34	100	27	100	1	100

4) 同時中継による遠隔授業

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
⑤ その他（ ）

Ⅱ 問5-4. 遠隔授業	合計 (n=109)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	8	7.3	1	5.9	0	0.0	4	11.8	3	11.1	0	0.0
②期待する	47	43.1	5	29.4	16	51.6	13	38.2	12	44.4	1	100.0
③わからない	33	30.3	7	41.2	11	35.5	9	26.5	6	22.2	0	0.0
④期待しない	20	18.3	4	23.5	4	12.9	8	23.5	4	14.8	0	0.0
⑤その他	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.7	0	0.0
計	109	100	17	100	31	100	34	100	26	96	1	100

5) パソコンやインターネットを活用し個人学習できる e-ラーニング

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
⑤ その他 ()

Ⅱ 問5-5. e-ラーニング	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	15	13.6	5	29.4	3	9.7	3	8.8	4	14.8	0	0.0
②期待する	54	49.1	7	41.2	17	54.8	15	44.1	14	51.9	1	100.0
③わからない	27	24.5	4	23.5	9	29.0	9	26.5	5	18.5	0	0.0
④期待しない	13	11.8	1	5.9	2	6.5	7	20.6	3	11.1	0	0.0
⑤その他	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.7	0	0.0
計	110	100	17	100	31	100	34	100	27	100	1	100

6) 専門職としての資格取得

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
⑤ その他 ()

Ⅱ 問5-6. 専門職としての資格取得	合計 (n=109)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	25	22.9	9	52.9	8	25.8	5	14.7	3	11.5	0	0.0
②期待する	61	56.0	6	35.3	17	54.8	20	58.8	17	65.4	1	100.0
③わからない	18	16.5	2	11.8	6	19.4	5	14.7	5	19.2	0	0.0
④期待しない	5	4.6	0	0.0	0	0.0	4	11.8	1	3.8	0	0.0
⑤その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	109	100	17	100	31	100	34	100	26	100	1	100

7) 他大学・大学院との学術交流

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
⑤ その他 ()

Ⅱ 問5-7. 他大学・大学院との学術交流	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	14	12.7	1	5.9	5	16.1	6	17.6	2	7.4	0	0.0
②期待する	52	47.3	7	41.2	15	48.4	15	44.1	14	51.9	1	100.0
③わからない	33	30.0	5	29.4	10	32.3	8	23.5	10	37.0	0	0.0
④期待しない	11	10.0	4	23.5	1	3.2	5	14.7	1	3.7	0	0.0
⑤その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	110	100	17	100	31	100	34	100	27	100	1	100

8) 海外での看護研修や海外の大学や病院との学術交流

- ① 大いに期待する ② 期待する ③ わからない ④ 期待しない
⑤ その他 ()

Ⅱ 問5-8. 海外研修、大学・病院との学術交流	合計 (n=110)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①大いに期待する	5	4.5	1	5.9	2	6.5	1	2.9	1	3.7	0	0.0
②期待する	53	48.2	9	52.9	18	58.1	11	32.4	14	51.9	1	100.0
③わからない	39	35.5	4	23.5	10	32.3	15	44.1	10	37.0	0	0.0
④期待しない	13	11.8	3	17.6	1	3.2	7	20.6	2	7.4	0	0.0
⑤その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	110	100	17	100	31	100	34	100	27	100	1	100

1)2)4)の表の通り、昼夜開講、長期履修、遠隔授業に5～6割程度の方が期待を寄せていた。これらについては、約3割の方がわからないと答えており、それぞれどういったものなのか説明の必要が考えられた。3)の集中履修、は4割近くの方が期待を寄せる一方で、半数程度の方がわからないと答えており、さらに説明の必要性があると考えられた。5)の表の通り、e-ラーニングについては、6割を超える方が期待を示しており、わからないとする方の割合は3割を切っていた。6)の表の通り、資格取得に対しての期待は高かった。7)8)の表からは、他大学の大学院や、海外での研修や海外の大学・大学院との交流について5割～6割の方が期待を寄せていることが理解できた。

問6. 専門看護師養成課程の併設についてお答えください。該当するものに○をつけてください。

1) 専門看護師養成課程の併設

① 希望する ② 希望しない

Ⅱ 問6-1. 専門看護師養成課程	合計 (n=106)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①希望する	59	55.7	7	41.2	20	64.5	20	62.5	12	48.0	0	0.0
②希望しない	47	44.3	10	58.8	11	35.5	12	37.5	13	52.0	1	100.0
計	106	100	17	100	31	100	32	100	25	100	1	100

2) 「1) で①希望する」とお答えになった方のみ、希望される専門看護師を選択してください。（複数回答可）

① がん看護 ② 精神看護 ③ 地域看護 ④ 老人看護 ⑤ 小児看護 ⑥ 母性看護
⑦ 慢性疾患看護 ⑧ 感染症看護 ⑨ 急性・重症患者看護 ⑩ 家族看護 ⑪ 在宅看護

Ⅱ 問6-2. 希望専門看護師	合計 (n=56)		20代 (n=7)		30代 (n=20)		40代 (n=20)		50代 (n=4)		60代以上 (n=0)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①がん看護	28	50.0	3	42.9	9	11.1	13	14.9	3	10.3	0	0.0
②精神看護	28	50.0	4	57.1	9	11.1	11	12.6	4	13.8	0	0.0
③地域看護	37	66.1	5	71.4	15	18.5	12	13.8	5	17.2	0	0.0
④老人看護	11	19.6	0	0.0	6	7.4	3	3.4	2	6.9	0	0.0
⑤小児看護	14	25.0	1	14.3	4	4.9	7	8.0	2	6.9	0	0.0
⑥母性看護	15	26.8	1	14.3	5	6.2	7	8.0	2	6.9	0	0.0
⑦慢性疾患看護	21	37.5	2	28.6	9	11.1	8	9.2	2	6.9	0	0.0
⑧感染症看護	11	19.6	0	0.0	3	3.7	6	6.9	2	6.9	0	0.0
⑨急性・重症患者看護	10	17.9	1	14.3	4	4.9	5	5.7	0	0.0	0	0.0
⑩家族看護	13	23.2	2	28.6	5	6.2	5	5.7	1	3.4	0	0.0
⑪在宅看護	29	51.8	1	14.3	12	14.8	10	11.5	6	20.7	0	0.0
計	217	—	20	—	81	—	87	—	29	—	0	—

CNSコースの併設は55.7%の方が期待されており、多くのコースで設置希望があったが、特に高かったのは地域看護、在宅看護、がん看護、精神看護のCNSコースであった。

問7. 看護職員（保健師、看護師など）を養成する大学、大学院等に在学している学生で、卒業後、鳥取県内で看護職員の業務に従事する意思のある方に貸付する鳥取県の「看護職員修学資金」制度をご存じでしたか。（大学院修士課程の場合 83,000円/月） 該当するものに○をつけてください。

① 知っていた ② 知らなかった

Ⅱ 問7. 看護職員修学資金	合計 (n=109)		20代		30代		40代		50代		60代以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
①知っていた	57	52.3	10	58.8	14	46.7	19	55.9	14	51.9	0	0.0
②知らなかった	52	47.7	7	41.2	16	53.3	15	44.1	13	48.1	1	100.0
計	109	100	17	100	30	100	34	100	27	100	1	100

回答者の約半数が「知らなかった」と答えたため、今後説明に必要性があると考えられた。また本アンケートによって、その存在をある程度周知することもできたと考える。

問 8. その他、大学院(修士課程)設置に関するご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

10名の方から自由記載でご意見をいただいた。内容ごとに分類すると、概ね肯定的なご意見が7名より、否定的な意見が3名から得られた。

肯定的なご意見としては、「身近で学べる場があるのは良いこと」というものや、「県全体の看護のレベルアップを望む」という期待、大学院の修士生へ学んでほしいことを語られる方、大学院ができることによるコンサルテーションへの期待、博士課程への期待などの意見があった。また、大学院で保健師教育や助産師教育をしてはどうかとのご提案もあった。

否定的な意見としては、「保健師の大学院進学イメージがつかず、看護師向けのもののように感じた」という意見や、大学教育の充実や実習の充実が優先課題であるとのご意見があった。

	内 容
1	選択肢が多い方がよいと考えましたが、一方対応されるのは大変かとも思います。希望の多いところに限定されることもやむをえないかとも思います。身近なところで学べる機会が増えることを期待します。
2	希望している人にとって県内に学ぶ場があるということはいいいことと思います
3	保健師は、専門職としての教育体制の整備がようやく開始されてきたばかりです。臨床での医学・看護状況を定期的に学び、行政の業務につなげていけるような教育内容も必要だと感じています。行政看護のコンサルタントをしていただけたらと思います。(大学院設置内容ではないかもしれませんが…)
4	研究を深めれるための課程が新設されることは賛成するが、同時に現場の業務に直結する実習(地域診断や家庭訪問技術)がほぼ無に近い状態で卒業される現状は実際に勤務にあたる職員の現任教育の視点から言って非常に厳しい。実習の充実もあわせて切望します。
5	専門性を高めることはとても大切であるが、道徳とか、人間性を高める教育を併せて行って欲しいです。
6	レベルアップを図ってほしい
7	山陰地方のCNS養成課程では入学希望者が実際のところ少ないと聞いています。また、大学院での取得資格を保健師・助産師に広げてみる検討についても同時にしてみられてはいかがでしょうか。実際に実現性が薄いものだとしても検討する必要はあるのではないのでしょうか。
8	今後在宅での看とりが増えていくために、介護職など多職種と連携して協働できる人材が必要だと思われる。
9	博士課程ができれば良いですが。
10	このアンケートがなぜ保健師あてなのかよく分かりません。今の業務や学んでいること、学びたい事とそぐわないアンケート内容でないかと思う。看護師向けアンケートならまだわかる質問項目が多かった。 大学院の特徴の期待度については、進学予定のない者としては非常に答えづらいなと感じました。保健師が進学するというイメージが全くないです。(私が前例を知らないためでしょうか)